

ITヘルスケア学会第4回年次学術大会開催に寄せて

ITヘルスケア学会
第4回年次学術大会実行委員長
高崎健康福祉大学
木村 憲洋

医療分野におけるICTの利用が進んでいる。PubMedによる文献検索、電子レセプトやオーダーリングシステム、電子カルテなどといった医療機関経営や診療支援のICTツールが急速に普及している。複雑化する医療や医療機関の経営には、ICTは不可欠なツールとなっていることは間違いない。

さらに、患者の視点から、医療分野におけるICTの導入は、大きな意義がある。インターネットによる医療機関の検索と情報収集は、患者が医療機関を選択することを可能にした。さらに、電子カルテの普及は、患者や患者の家族が個人の診療に関する、見読性の高い診療情報にアプローチすることを可能にした。

ICTにより便利になる一方で、医療従事者側からの不満の声も上がっている。電子レセプトの全面導入への反対や医療現場におけるオーダーリングシステムや電子カルテの入力に対する負担の増加に対する不満が日々大きくなっている。

そこで、本大会では、医療従事者とICTをテーマに掲げ、医療現場とICT導入について、医療機関の経営や医療政策、安全管理、医療の質、診療情報管理、医療におけるガバナンス、医事法制などについて議論を深められることを希望する。